



▲先発組は尾道市街地までのダウンヒルを楽しむ



▲車道の路側に推奨ルートを明示するブルーライン



▲多々羅大橋、生口島を望む多々羅しまなみ公園



▲ツアー2日目同様、Aチームは1時間前にスタート



▲大三島と伯方島を結ぶアーチ橋・大三島橋

ツアー2日目、急遽結成した「健脚若者チーム」計6名はバスには乗らず自走で尾道港を目指します。尾道港までは爽快なダウンヒル、かと思いきや、だらだらと続く長い登りもある走り応えのあるコース。先にバスで到着した他のグループと向島で合流し、因島を経て次の目的地、生口島にある「平山郁夫美術館」まで素晴らしい海岸線を走りました。美術館をあとにして「鳴き龍」で有名な多々羅大橋を渡り大三島へ。次の目的地は「伊東豊雄建築ミュージアム」。アップダウンのある

道を走り、途中で立ち寄った大山祇神社では、ヘルメットにつける「お守り」を購入しました。

3日目も前日同様、他のグループより先に宿舎を出発。伯方島を一周するか、大島の「亀老山展望台」に登るかをチーム内で相談した結果、展望台ヒルクライムコースに決定。そこは脚に自信のあるメンバー、より走り応えのあるコースを選びます。伯方島の海岸線を走り、大島を縦断し、案内に従って亀老山展望台への坂道の入り口へ。ここから頂上の展望台まで延々と

登りが続きます。途中、伯方島一周を選ばなかった事を後悔しながら、何とか頂上へ到着しました。展望台からの眺望は素晴らしく、対岸の今治市はもちろん、遠くの石鎚山系の山並まできれいに見えました。あとはダウンヒルのみ、必死で登った坂道を一気に駆け下り、来島海峡大橋を渡って、他のグループの待つ今治城まで走りました。

天候に恵まれ、きれいな海岸線に沿って、潮風を受けながら走った素晴らしいツアーでした。

CMA自転車市民倶楽部 石倉 康平



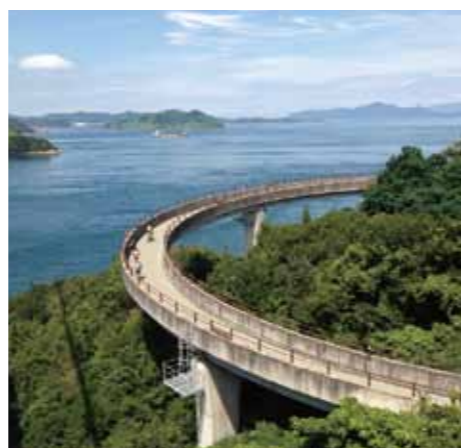
▲手をたいて「鳴き龍」を共鳴させる多々羅大橋



▲スレンダーな姿の因島と生口島を結ぶ生口橋



▲来島海峡と四国山脈一望の亀老山展望公園



▲来島海峡大橋の自転車用ループ橋

発行：一般社団法人コミュニティマネジメント協会
〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路2丁目1-14 日之出第三住宅(ことぶき住宅)105号室
電話：06-7860-4730 FAX：06-7860-4731
<http://www.cma-web.net>

つるむde尾道バス輪行ツーリズム2012



東日本大震災に配慮して1年延期された「海フェスタおのみち」が7月の海の日を中心に開催されました。フェスタへの協賛とさまざまなふれあいを意図した「つるむde尾道」もこれにあわせて、7月14~16日の2泊3日で実施いたしました。

1日目は尾道着後、平谷尾道市

長への表敬訪問と尾道空き家再生プロジェクト他の散策の2班に分かれて、さまざまな「つるむde」が実現しました。平谷市長からは「自転車ツーリズムによるまちづくり」の熱いお話の一方、過疎化の進行・経済基盤の脆弱化他地方都市特有の厳しい現実を聞かされ、近畿・中国地

方の活性化のためには、やはり「元気な大阪」がキーワードであることを強調されていました。尾道・大阪の「つるむde」のきっかけの思いをこめて、京都白河総合支援学校生作成の「苔玉」と小寺さん作成の「小枝鉛筆」を市長に贈呈いたしました。

(2面へ続く)



▲JR尾道駅「駅前ロータリー」



▲「苔玉」と「小枝鉛筆」を市長に贈呈



▲尾道水道を一望できる市長室



▲児玉教授(左端)と訪問したCMAメンバー



▲海フェスタのシンボルアート「10m級の巨大アヒル」



▲1日目宿舎・天然温泉「尾道ふれあいの里」



▲蛸料理「ちどり」で、たこめし昼食



▲館長(平山画伯の実弟)案内の「平山郁夫美術館」



▲ノスタルジックな雰囲気の「しおまち商店街」

2日目はしまなみ海道の尾道～大三島間のサイクリング(バスツアー)です。生口島・瀬戸田町の平山郁夫美術館では平山館長直接のご説明を得ることができたため、平山作品の魅力を感じることができました。また、しおまち商店街広場の「石像彫刻設置プロジェクト」の180点の石像彫刻にも感動させられました。瀬戸田での企画は尾道大学・児玉教授のご尽力で実現したものでした。紙面をかりてお礼申し上げます。

大三島では大山祇神社参拝(自転車ヘルメットお守り)の後、伊東豊雄建築ミュージアムを訪れ、再建されたシルバーハットと瀬戸内海を含

めたゆったりした景観との対話に浸ることができました。

3日目はしまなみ海道の大三島～今治間です。今治市に入ってからしまなみ海道はさらに雄大な景観に変化し、昨日平山美術館で鑑賞した来島海峡大橋の実物を前に、しまなみ海道完走の感慨に浸られた方も多かったと思います。

CMAの十八番になったバス輪行を最大限に活用した豊富で多様なメニューと素晴らしい天気恵まれ、忘れることのできない「つるむde尾道」であったと思います。現地でお会いしお世話になった方々からは、尾道のまちづくりへのCMAの積極参加



▲「石像彫刻設置プロジェクト」の石像彫刻

を望む声もあり、文字通り「つるむde」良かったツアーでした。今回の旅が無事完了することができましたことは、ひとえにご参加いただいた方々の温かいご協力の賜物と思っております。本当に有難うございました。

CMA会長 井上 守



▲瀬戸内を背景に「伊東豊雄建築ミュージアム」



▲再建された建築学会賞の「シルバーハット」



▲2日目宿舎・新鮮な魚料理満喫の民宿「なぎさ」



▲A-1はすでに1時間前に、A-2チームのスタート



▲鉄御門が平成19年9月に再建された今治城



▲城内、藤堂高虎銅像前でなびき(?)のポーズ

尾道空き家再生プロジェクト見学



▲三軒家アパートメント



▲北村洋品店前路上で豊田さんに話を聞く

CASE松富謙一さん案内による空き家再生プロジェクト見学は、JR尾道駅前から出発。松富さんは大阪・空堀でも古い長屋の再生を手がけています。尾道の空き家再生にも深く関わっています。尾道の山側に多い廃屋となった空き家の発生と再生の過程も伺うことができ、建築やまちづくりに関わるメンバーには興味深い見学となりました。松富さん、ありがとうございました。

最初に訪れた「三軒家アパートメント」は駅近くにあります。木造モルタル2階建てでアーティストたちの工房や



▲2階から俯瞰した北村洋品店

ギャラリー、なぜか卓球場などに利用されていました。昭和レトロの古さや不便さをあえてそのまま生かしています。隣接の「北村洋品店」で空き家再生プロジェクト代表の豊田雅子さんから活動や再生のお話を聞いたあと、現在改修中の「ガウディハウス」の中を見学。崖にへばり付くように建つガウディハウスは築80年ほど。瓦屋根、床の間やかまどのある純和風建築ですが、縦に伸びる異形の外観からガウディハウスと呼ばれるようになったようです。去年のプレツアーでは外観だけの



▲ガウディハウスへ向かう急坂



▲ガウディハウス

見学でしたね。暑さと急坂にあえぎながら、路地をたどって大手前大学が中心となって改修に携わった「森の家」や「アクアの森の小さな家」など再生された家を見学。「ネコノテパン工場」で小休止して水分補給しました。それにしてもそこら中に猫がいました。尾道と猫の写真集も出ているくらい。

坂の上からは尾道市街と海が見渡せる絶景です。またお寺が多いのもこの町の特徴で、その一つ光明寺の中の「エア・カフェ」でまたまた休憩。これも3年前に改装再生して文化拠点として利用されているものです。

最後に訪れた「三角堂」は尾道大学の学生山本晶大さんがほぼ一人でこつこつ再生した住居兼アトリエ。経験を積んだからか他の空き家再生にも声がかかるようになったとか。ただ現在は卒業制作にかかっているので中断しているとのこと。

豊田さんや、山本さんなどの地元の若者と、松富さんなど応援する研究者たちの協力による空き家再生事例そのものが、尾道というまちの新たな地域資源・観光資源となり、進行する過疎化を食い止める役目を果たしています。詳しくは、<http://onomichisaisei.com>



▲ネコノテパン工場



▲光明寺前JRの跨道橋



▲市街地・海を望む



▲三角堂の山本さん